

第54号議案

福井県における中高一貫教育校（附属中学併設）の  
設置方針の決定について

福井県における中高一貫教育校（附属中学併設）の設置方針を別紙の  
とおり決定する。

平成25年3月25日提出

教育長 林 雅 則

提 案 理 由

福井県における中高一貫教育校（附属中学併設）の設置方針を決定し  
たいので、この案を提出する。

平成 25 年 3 月 25 日  
学 校 教 育 政 策 課

## 併設型中高一貫教育校設置に向けた準備について

### 1 平成 25 年 3 月

- ・ 2 月 25 日の設置方針（案）公表後、高志高校内で校務分掌毎に検討中
- ・ 週 1 回の頻度で、高志高校と県教育委員会が、検討項目を洗い出し、準備スケジュール、中学校教室等の配置、教育課程編成方針等について協議

### 2 平成 25 年 4 月～

#### (1) 中高一貫教育校の教育内容等の検討

- ・ 4 月以降、高志高校と県教育委員会が、外部アドバイザーの助言も受けながら、教育課程、特色ある教育プログラム、施設設備の整備、入学者の選抜方法等について、夏まで集中的に検討

#### (2) 児童、保護者等への周知

- ・ 開設準備委員会における検討結果を取りまとめ、夏以降、県内各地で地域説明会を開催し、高志高校および附属中学校における中高一貫教育の内容等を、児童・保護者にわかりやすく説明

#### (3) 教員の養成

- ・ 中高一貫教育の推進に意識の高い教員を、茨城県、長野県、静岡県の中高一貫教育校に 1 年間派遣し、先進校のノウハウを学ぶとともに、自分の属する校種と異なる校種における教科指導等についても研修

福井県における中高一貫教育校（附属中学併設）  
の設置方針

平成25年3月25日  
福井県教育委員会

## 1 本県における中高一貫教育（附属中学併設）導入の必要性

### (1) これまでの高校教育改革

本県は、平成16年度の全県1学区による高校入試の実施等による県立高校入学者選抜の改革に続いて、平成17年度に開始したあわら地域、朝日地域、三方・美浜地域における地元中学校と連携した福井型中高一貫教育、平成23年度以降、奥越、若狭、坂井の各地区で実施している文理探究科等特色ある学科や総合産業高校の開設等を内容とした高校再編整備等、着実に高校教育改革に取り組んできた。

### (2) 多様な教育機会の創出

大学進学等において、より高度な知識や判断が求められる中、全国トップレベルにある本県の小・中学生の学力を高等学校において更に伸ばし、本県の将来を担う優れたリーダーを育てるためには、新たな教育改革を進める必要がある。

特に、中学・高等学校を通した中等教育期間にある生徒は、学力の伸びや将来の目標を定める時期が成長の度合いに応じて大きく異なる。中学の早い段階で明確な目標を持ち、学力等の成長が著しい生徒がいる一方で、じっくりと将来を考え、高等学校の段階で急激に学力等が伸びる生徒もいる。

こうした様々な生徒が、自らの能力や個性に応じて、その持てる学力等を最も効果的に伸ばせる多様な教育を選択できる中等教育制度を充実しなければならない。

### (3) 中高一貫教育（附属中学併設）の導入

高等学校に附属中学校を併設する中高一貫教育校では、中学校と高等学校の6年間を通じて同じ教員が継続して生徒を指導し、境目なしに一貫した教育が行える。また、中学校と高等学校の教育課程を弾力的に編成することができる。

そのため、中学入学時から意欲的に学習に励み、高い目標を持つ生徒にとっては、従来の独立した中学校と高等学校において別々の教育カリキュラムに基づく教育を受けることに比べて、より効果的に能力を引き出す教育が可能となる。

さらに、高校受験にかける時間などを有効に活用して、学習進度を早めることにより、高等学校段階でより発展的な学習も可能となる。

こうしたことから、「福井県立高等学校改革検討委員会」がとりまとめた「福井県における中高一貫教育の推進について」の提言に基づき、新たに中高一貫教育（附属中学併設）を導入する。

## 2 本県の中高一貫教育校（附属中学併設）における特色ある教育

### (1) 教育目標

- 「地域社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性」
- 「ふるさと福井への深い知識と大きな誇り」
- 「世界に通用する語学力と国際感覚」

これらを備えた人材を、6年間を通して育成する。

### (2) 具体的な教育内容

- ・ 数学や理科等において教育課程編成の特例を活用し、中学校において高等学校の学習の一部を学ぶ先取り学習などを進め、高等学校においても教科書を超えた発展的学習を行う。
- ・ 中学入学段階から6年間を通じて、生徒が自ら設定した課題について、グループ研究や大学・企業等に出向いての調査などに取り組み、社会に出て役立つ実践的な学習活動を積極的に導入する。

- ・故白川静博士の研究成果に基づく漢字学習や、日本の古典を数多く読み、ふるさとへの理解を深める学習を充実する。
- ・「福井県史」等を活用して福井の歴史を学ぶとともに、福井の地理や産業等についても探究的な学習を行う。
- ・由利公正「議事之体大意」、橋本左内「啓発録」などを教材として活用するとともに、岡倉天心の「東洋の理想」、「日本の目覚め」、「茶の本」を英文で読み、自分の考えを英文で表現するなど、先人から福井人の心を学ぶ学習を行う。
- ・実用英語検定等の外部検定の積極的な活用により、実践的な英語力を育成する。
- ・12歳から18歳までの成長期にある生徒が、中学、高校合同の学校行事や部活動など、6年間を通した学校生活を共にすることにより、互いの人格や個性を尊重する態度、主体的なものごとに取り組む気概、友人と協力して目標達成する姿勢などを育てていく。

### 3 中高一貫教育の効果を高める教員の努力と授業改善の推進

中高一貫教育の所期のねらいを達成していくためには、まずは指導する立場にある教員自身が、相互に自主的な授業力の向上に努めなければならない。また、中高一貫教育の重要性を意識して、幅広い素養と質の高い教育方法を身に付けることが重要になる。

このため、県外の公立中高一貫校への派遣により教育方法を意欲的に吸収することや中学校と高等学校の人事交流に自発的に挑戦することなど、積極的に中高一貫教育を推進する意識のある教員を設置校に配置する。

また、開校後も、引き続き大学や研究機関等と連携して、研究実践や校内研修等の充実等に努め、教員自身が使命感をもって不断に授業改善を進めていく。

## 4 新しい中高一貫教育校の概要

### (1) 設置校・開校時期等

新たに中高一貫教育を導入する高等学校を、福井県立高志高等学校とし、同校に附属中学校を併設する。

附属中学校は、平成27年4月を目途に開校する。

### (2) 学校の規模等

附属中学校の規模は3学級とし、高等学校の規模は7学級とする。

附属中学校の生徒は、高志高等学校の普通科に進学する。

### (3) 入学者の選抜等

#### ①附属中学校

- ・通学区域 県内全域
- ・1学年定員 90名
- ・入学選抜 適性検査、作文、面接、小学校からの調査書など、複数の選抜方法を組み合わせて実施する。

#### ②高志高等学校

- ・附属中学校からの進学者のほかに、学力検査等により入学者を選抜する。

## 5 開校に向けた準備等

### (1) 児童、保護者、学校関係者等への周知

中高一貫教育の教育課程の概要、附属中学校の入学者選抜方法などについて、県内各地で学校説明会を実施するなど、これから入学する子どもたちや保護者にわかりやすく説明する機会を数多く設けていく。

### (2) 施設・設備の整備等

既設の高志高等学校の校舎を有効に活用することを基本方針として、中高一貫教育の導入に必要となる教室や附属設備の充実を図るほか、福井独自の特色ある教育を進める施設・設備等を整備する。

## 6 高校教育改革のさらなる推進

中高一貫教育（附属中学併設）の導入のみならず、これまで実施してきた地元中学校と連携した福井型中高一貫教育の強化、各地域の一層の教育力を高める高校再編の推進、企業や大学などの協力に基づく職業教育の充実、定時制・通信制教育の改善など、福井県の将来を担う地域人材の育成に結び付く本県高等学校教育改革を今後とも積極的に進めていく。